

第35回 現代世界の地誌的考察

■■ 現代世界の諸地域編 ■■

世界のさまざまな地域を見てみよう

～ロシア～

監修・講師

関 啓子

学習のねらい

ロシア。近くて遠い国の印象があるかもしれないが、実は、日本とは関係が深い国である。経済発展のためにお互いを必要としているし、文化・芸術の面では、両国民は相互に深い関心をいだいている。ロシアの自然や民族、歴史をふまえ、経済と社会の変化を追ってみよう。ロシアと日本との意外な相互関係が見えてくるだろう。

今回のポイント

- ロシアの自然・民族・歴史
- 変わるロシアの経済と社会
- 日本と隣国ロシアとの交流

■■■ ロシアの自然・民族・歴史 ■■■

ロシアの国土は日本の約45倍で、その大半は亜寒帯と寒帯に属している。

針葉樹林(タイガ)が広大な面積を占め、シベリア北部には永久凍土の地域が広がっている。極東南部の混交林・広葉樹林は生物多様性が豊かで、アムールトラなどの希少種が生息している。自然環境は厳しいが、天然資源には恵まれ、石油や天然ガスなどの地下資源が豊かである。

民族構成をみれば、ロシア人が8割を占めるが、ロシアは約200の民族が暮らす多民族国家である。極東には少数民族のナナイやウデヘなどが生活している。ロシア人のほとんどはロシア正教を信仰しているが、タタール人などはイスラームを信仰し、ユダヤ教、仏教や伝統宗教を信ずる人々もいる。

1917年にはロシア革命で帝政が倒れ、1922年に世界初の社会主義国として、ソビエト社会主義共和国連邦(ソ連)が誕生した。社会主義時代には、平等を重視して国民生活を向上させ、国家が経済を計画し、統制する計画経済を実施して急速な経済発展を果たしたが、個人の多様な考え方や自発性を抑制したことから、次第に社会は活力を失い、1980年代になって経済は停滞傾向を強めた。その結果、共産党の支配体制が揺るぎ、1991年にソ連は解体した。

■■■ 変わるロシアの経済と社会 ■■■

ソ連解体後のロシアは、社会主義的計画経済から資本主義的市場経済に転換した。当初は、急激な転換のため、生産は落ち込み、激しいインフレで、社会は混乱した。こうしたロシアを救ったのは豊かな燃料エネルギー資源で、石油・天然ガスなどの高価格での輸出によって経済

は息を吹き返し、BRICS の一国として注目されるようになった。体制転換によって人々は表現や移動などの自由を得たが、同時に貧富の格差が拡大した。

ロシアの経済と社会はいま重要な課題を抱えている。1つは、価格変動の激しい石油や天然ガスなどの資源輸出に依存する経済を改め、製造業を復興し、自前のハイテク産業を創設することである。2つ目の課題は、インフラの整備やシベリア・極東の経済発展である。特に莫大な資源が眠っているのに人口流出が止まらないシベリアや極東の経済開発は、アジア太平洋地域との関係を深めようとしているロシアにとって緊急の課題である。3つ目の課題は人材養成。ソ連解体後の混乱期に優秀な人材が国外に大量に流出してしまったので、科学技術の発展を担う人材の養成が課題となっている。

■■ 日本と隣国ロシアとの交流 ■■

日本とロシアは領土問題などを抱えているが、両国の人々は相互の文化に関心をいただいている。日本ではロシア文学やバレエ・音楽などのロシアの芸術・文化に興味をもつ人が少なくない。ロシアでは、アニメや華道などの日本文化の人気の高い。また日本はロシアからエネルギー資源を購入し、ロシアは日本から自動車などを購入するばかりか、特に極東開発のために日本の資本や技術を必要としているなど、両国は経済の面でも相互に不可欠な関係にある。平和条約が結ばれて両国の経済・文化交流がいっそう活発化し、ひいてはそれが極東の平和につながることを望まれる。